

長崎大学 市民公開講座「新型コロナは終わりになき戦いか？」に参加しました！

安田先生らのグループはキャノンメディカルシステムズ株式会社と共同し、LAMP法を用いた新型コロナウイルスの検出方法を開発しました。ウイルスの検出にはPCR検査が約4時間かかるのに対して、LAMP法では約40分で判定できるそうです。離島やドライブスルー検査場を含む県内17カ所で活用されているだけでなく、体操の国際大会や水泳の飛込ワールドカップでも活用されたそうです。安田先生はアフリカのエボラウイルス病やブラジルのジカ熱の制圧にも貢献されました。また、アフリカのガボン共和国でも熱性疾患について研究されました。（長崎大学の市民公開講座案内ポスターより一部抜粋、一部講演内容を反映）

5月22日（土）長崎大学感染症共同研究拠点の安田二郎教授による講演会（オンライン）に、19名（高校1年生7名、高校2年生8名、高校3年生4名）が参加し、積極的な質問を行いました。

講演では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について詳しく教えていただきました。新型コロナウイルス感染症の流行地域は全世界に広がり、現時点で約1億6千万人以上が感染しており、致死率は2.5%、潜伏期間は1～14日だそうです。原因ウイルスはSARSコロナウイルス2という名称で、その形状やゲノム（遺伝子）増殖のメカニズムなど高度な内容についてもスライドを用いて分かりやすく説明していただきました。

エボラ出血熱や高病原性鳥インフルエンザ、C型肝炎などの新興・再興感染症出現の背景として、以下の項目があげられました。（探究の着眼点にも役立ちそうです！）

- 航空機などにより、人と物資の流通量拡大
- 森林伐採による環境破壊
- 人口の急増とそれに伴うジャングルの開拓
- 未開地や発展途上国への旅行者の増加
- 地球温暖化に伴う異常気象による病原体の自然宿主の増加や分布の変化
- 貧困によって公衆衛生の向上が実現しないこと
- 抗生物質の不適切・過剰使用
- 高齢化社会が到来し高齢化により免疫力で抑えきれなくなった症状の出現
- 種々の動物がペットとして輸入飼育される機会の増加



ハムスターを用いた実験では、インフルエンザとの重感染が確認され、肺炎の重症化や回復の遅れが見られたとのこと。また、東京大学の研究が紹介され、マスクを着用すると、ウイルスの拡散を抑える効果と吸い込むウイルスを減らす両方の効果があるそうです。

今後考えられるシナリオとして、1 常在化する、2 季節性あるいは散発的に発生、3 完全に終息、の3つがあり、現時点では1か2の可能性が高いということでした。

～参加した生徒の感想～

- メディアリテラシーを高め、ニュースを鵜呑みにせず、批判的な角度から読み取りたい。
- マスク・手洗い・密を避けるといった感染症対策が今後も大切だと再認識した。
- 生物の授業で習ったmRNAなどに関する話もあり、薬学部での研究が楽しみになった。
- 感染症克服には病原体についても知ることが大切。ウイルスについてもっと深く勉強したい。